

## 第3回低炭素ワーキンググループ

### 議事録

1. 日時：2016年7月22日金曜日 9:30～11:30
2. 場所：虎ノ門ヒルズ森タワー9階 London 会議室
3. 参加委員：枝廣委員、小西委員、藤野座長、臼井委員、三浦委員、岩川オブザーバー
4. 議事録：

※議事録では「ワーキンググループ」を一部「WG」と記載しております。

- 事務局 第3回低炭素ワーキンググループを開催します。人事異動により、東京都オリンピック・パラリンピック準備局の西沢さんから大会施設部施設調整担当課長の臼井さんに代わっております。  
それでは以後の議事進行につきましては、藤野座長にお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。
- 藤野座長 おはようございます。一昨日の親委員会の時に小宮山先生に低炭素ワーキンググループの目標は何だと聞いたら、ゼロ排出・完全資源循環だと言われてしまいました、実は昨日のJSTの委員会でも小宮山先生にお会いして、また釘を刺されてしまった。どういう答えになるのか、もちろん2020年に本当にゼロかどうかというのは、彼もカーボン・オフセットの話とか福島の再エネの話もしていて、一応現実的な解をお持ちかもしれませんが、やはりこの低炭素ワーキンググループでそこを具体的に色々な方に説明しないとイケないもので、その答えを皆さんと議論していければと思います。よろしくお願いいたします。  
前回の振り返りということで、事務局の方からご説明いただければと思います。
- 事務局 資料2（第2回低炭素WG 議事概要）を使って、前回の概要を説明。
- 藤野座長 ありがとうございます。何か質問があれば、よろしいでしょうか。  
今日色々話題があるので、次は資源管理ワーキンググループと調達ワーキンググループについての検討状況の報告ということで、こちらも事務局からお願いいたします。
- 事務局 資料3（資源管理WG・持続可能な調達WGの検討状況）を使って、それぞれのWGでの検討状況を説明。
- 藤野座長 どうもありがとうございました。今のご説明につきまして何かご質問はありますか。
- 枝廣委員 位置づけというか、この低炭素ワーキングで他のワーキングの進捗とか検討状況をお伺いして、どういう関わりまでが許されているのでしょうか。例えば、コメントすることが可能なのか。特に関心がある、関係があるものに関しては特別に傍聴なり、そういうことが可能なのか。ワーキング間の行き来というか、そのあたりに関してはどのように考え

ていらっしゃいますか？

- 事務局 コメントにつきましては、是非出していただければと思います。先日のDGの中で崎田委員から食材の認証にかかわるとりまとめをいただきまして、それを今度の調達ワーキングで紹介しようと思っています。  
参加については、オブザーバーという形で参加されることになるか、検討してご回答させていただければと思います。
- 藤野座長 座長の先生との相談もあるでしょうね。本当に特にテーマによってでしょうね。
- 事務局 そうですね、座長の先生に相談いたしまして、オブザーバーとして参加していただけるかどうか、検討いたします。
- 小西委員 そうですね。自分が割と専門としている分野はよく発言していますけれども、畜産の方とか、調達ワーキングの方に少し情報提供とか必要であれば意見の提供は必要だと思っているので。それは座長の先生とご相談していただいております。
- 藤野座長 ありがとうございます。他何か。では小西さん。
- 小西委員 ありがとうございます。あとで発言させていただこうと思ったんですけども、ちょうど調達ワーキングの話になったので、調達ワーキングの中で低炭素に関わる部分を調達ワーキングだけで決めていくところが大変多く過去にありました。それを低炭素の方であればドラフティングまでは進めて、最後調達ワーキングで決めていただくにあたって例えば合同審議とか、そういった形で低炭素と調達の合同みたいな形のプロセスを是非作っていただきたいと思っております。  
これから食材ということなんですけれども、共通事項が並行して話し合われる中で結構、低炭素に関わる内容が入ってくるのではないかと考えております。ですので、そこは調達で決めるのではなく、まず低炭素のほうでドラフティングさせていただくということを最初にお願ひさせていただきたいのですが、いかがでしょうか。
- 藤野座長 いかがですかね。私自身は我々が働くことを前提に、分からないですけども大事なプロセスかなと思います。
- 事務局 ありがとうございます。一度我々の方から調達ワーキンググループでの検討状況を先生方にお伝えし、先生方からいただいたコメントを、改めてワーキンググループにご提示したいと思っております。
- 藤野座長 どうもありがとうございました。よろしいですか。
- 枝廣委員 そうですね。これからやっていくものでも農作物とか畜産、この辺りはCO<sub>2</sub>もしくは温室効果ガスの排出ということで非常に大きいので、これは調達のことというよりも調達と低炭素と両方が関わっている分野と認識していただければと思います。
- 小西委員 あと低炭素ワーキングの開催の仕方なんですけれども、前の議事録を見ても前は3月で次は4月を予定していると書いてあったんですけども、実際は7月になってしまっているような状況なので。もちろん日程調整がみんな忙しく難しいという理由はよくわか

るんですが、そうしますと例えば委員が全員揃わなくても一応開催していただいて、それでその時に欠席にならざるを得なかった委員だけ後でヒアリングという形にさせていただければと思っております。

全員がヒアリングだと結局なんとなく他の委員の方がどう発言したのかも分からないまま、なんとなくそれが反映されたかどうか分からないまま、調達のところ提出されてもなんかこう影響されてるのかどうか分からないままっていう状況なので、一応低炭素WGとしてこれが一つのコンセンサスなんですよっていうことを調達に出すという形でやっていただきたいと思うんですが、いかがでしょうか。

- 藤野座長 どうでしょうか。
- 事務局 ワーキングの開催方法などにご意見いただきました。この運営そのものについては、柔軟に考えていきたいと思っております。  
開催の仕方については、ご指摘の通り、全員揃わなくても、ご欠席の先生には個別にご説明にお伺いするとか、そういった運営方法でも開催することで進めたいと思います。今日ご意見があったことは、ディスカッショングループの高座長にもお伝えいたしまして、相談させていただきます。
- 藤野座長 三人しかいないので、二人は少なくともいないと。
- 事務局 枝廣委員から畜産に関わるコードについてのご質問がございましたが、調達ワーキングではまず数回は勉強会があって、そのあと具体的な調達基準に求められる要件を提案していく予定になっております。具体的なコードが出てきたところで委員の皆様にご相談したいと思います。
- 藤野座長 ありがとうございます。今の話からも、やはり持続可能性に関する基準、省エネ周辺、省エネ・再エネそのあたりについてはスケジュールでは10月までにWGで検討されるってあるんですけども、ちょっとそのタイミングでWGで特に省エネ・再エネなりCO2、低炭素に関わる場所がある場合には、こちらの議論をまずしておいて、是非調達WGの参考にさせていただいたほうがいいかなと。  
ちょっと小宮山先生の顔がちらちらするので。ちゃんと真面目にやらないと怒られそうなので、すいません。ちょっとそこでご検討いただけないでしょうか。柔軟によろしく願いいたします。ではよろしいですかね。次に行きます。  
次は、スマートエネルギー都市の実現に向けた取組を情報共有ということで、こちらは東京都の三浦さんから。
- 三浦委員 資料4（スマートエネルギー都市の実現に向けた取組）を使って、東京都の施策について説明（省エネルギー対策・エネルギーマネジメント等の推進、再生可能エネルギーの導入拡大、水素社会実現に向けた取組、東京都グリーン購入ガイド）。
- 藤野座長 どうもありがとうございました。急なお願いにも関わらず、ご対応いただきありがとうございます。何かご質問とかコメントがあれば。  
2020年の目標値はないんですか。

- 三浦委員 再生可能エネルギーの2020はないです。
- 藤野座長 そうですか
- 三浦委員 2024ですね
- 枝廣委員 2030年までの東京都の目標は本当に素晴らしいなとも思います。2030年までの、例えばGHGだと30%減へのロードマップとして、2020年の段階でどれくらいという値は出るのでしょうか。
- 三浦委員 一つは2030をどうやって設定したのかということですが、表を付けなかった部分があるのですが、なぜこの2030年30%なのかというところは、基本計画の中で書いていますが、サミット等で2050年までに世界全体の温室効果ガスを2010年比で40~70%の幅の上方で削減するという話がありました。当然我々、東京、世界の大都市でございますので、この70%を上回る削減を目指すことが必要であろうということで、現状の排出量から2050年にその70、80%削減の世界に向かう線を引いて、2030断面のところを取るとやはりこの時点で30は必要だろうと、そういう考え方でまず一つは設定をしております。それから2020年の目標につきましては、今の環境基本計画を立てる前の2008年に、2020年までに温室効果ガス排出量25%削減するという目標を立ててございます。
- 枝廣委員 東京オリンピックが2020年ということで、東京都が都市機能の目標を設定されています。そういった中で行われるオリンピックのいろいろな削減の目標とどれくらい整合させるか、どれくらい東京都の長期的なことを睨んだうえでそこで行われていく目標設定に反映させるか。その辺りはどんなふうに考えているのでしょうか。
- 藤野座長 この後のオフセットにつながる、大会で何トンCO2出すかっていうところに関わってくると思うんですけど、それと都全体の排出量を比較したときに1%ってわけにはいかないですけども0がいくつ付くんですかみたいな感じの。  
あとやっぱりその東京オリンピック・パラリンピックは先進性とかあのモデル性というか、まあ25%っていうのは都の全体な目標ですけど、小宮山委員長の顔がちらちらと思うと25%ってそのまま出したら馬鹿かって言われそうなので、そこ逆にその東京オリンピック・パラリンピックをやることで都の全体を引き上げられないかっていうことなんじゃないかなっていうのが、すいません、私の所見です。三浦さんは何となくうなずいていたので何となく、でもまあ都としての見解を出せるのかどうかは知りませんけれども。
- 三浦委員 難しいですね。
- 藤野座長 そうですよ。その辺り事務局の方で何かお考えあります。都の全体の目標との関連性の話。
- 事務局 もちろん東京都さんがやられる取組と運営計画で作る取組の整合性っていうのは合わせていかなければいけないと思っております。それを東京都さんと一緒に今作っているところでございます。
- 藤野座長 ありがとうございます。では小西さんお願いします。

- 小西委員 このキャップアンドトレードといい、再生可能エネルギーという本当に東京都さんは日本で最も進んでいらっしゃる自治体なので、そこがやっぱりオリンピックを開催されるっていうのは日本にとって宣伝材料が多くあっていいんじゃないかなと思っております。おそらくこの再エネの事業者レベルでの目標っていうのは、調達の方に結構関係するのかなと思うんですけども、多分運営の方はこのあと話し合われるものはおそらくかなりオフセットでも再エネ、電力証書とかでできるものではないかと思っておりますので、ここで例えば調達でオリンピックに応札される方はこの都の少なくとも再エネの要件の水準1と2を満たすことくらいまで言ってしまえといいんじゃないかなと、東京都さんの目標が2024年に20%需要電力のということなのでそれを少なくとも前倒して2020年。それは十分可能性として、選択肢として、もうあると思うんですね。というのはもうここに示されているように実際にはこの再生可能エネルギー利用率が非常に高い事業者さんというのが数多く現れていますので、ロト的にはおそらく東京都のオリンピックの調達に限っては問題ないんだらうと思うんです。ですので、メッセージ効果を非常に考えると、この東京都さんの持ってらっしゃる物をそのまま使わせていただくと非常に既にあるところにビルドオンすることができるので、まさにこのグリーン購入ガイドの水準2も東京都では、オリ・パラでは要求するみたいな形が入っていくといいんじゃないかなと思っております。  
あとキャップ&トレードの方も非常にめざましい成果をあげられて、ただ排出係数を例えば2030年の温室効果ガス30%目標というのも電事連さんが出してらっしゃる排出係数を基にしていますよね。0.37でしたっけ、そんな数字なので、実際今0.4 (0.498) 何とか、東電さんですね。ということはもしこのままのBAUでいくと温室効果ガスの削減というのも非常にこの電源係数によってしまうところがありますので、そういった意味でもこの電源係数を低く保つことをオリ・パラが率先してメッセージとして出していくことが東京都自身の取組の底上げにもつながるので、そこを是非ここは側面から大きく推していけるといいんじゃないかなと具体的に効果としてあるんじゃないかなと思っております。
- 藤野座長 どうもありがとうございます。調達のコードとかはまさにグリーン購入ガイドの書いてあるところというのは非常に参考になるので、その辺りは委員の方もお手伝いしながら、やらせていただけたらなと思います。
- 小西委員 ちなみにこの水準2を作られたときには、抵抗とか沢山あったんですか。
- 三浦委員 なかなか答えにくいですが、正直申しまして、一つはここはトライアル的な部分で水準は配慮事項であり、施設の状況に応じてというところもございました。もちろんこれを決めるとき、各局、都庁内の各施設を持つ、各局に照会をかけて特に大きな反応なく決まったものでございます。
- 小西委員 じゃあ是非それを。
- 三浦委員 私が言っているいいのかはわかりませんが、すべての施設に水準1のように、必須事項にするというところは、少し検討する余地がある部分かなと思います。あとはオリンピックとしてどうするかという考え方と、実際どのくらいの供給ができるのか、どのような形で施設に電力供給がされるのかも含めて、検討する必要があるかなというふうに思い

ます。

- 藤野座長 大会施設の方を担当されている臼井さんの方で何かご意見とか。
- 臼井委員 オリンピックでどのように進めていくかというところがこちらのWGの趣旨だということですね、東京都の基準としては非常に進めてきていると思うんですけども、それに対してプラスのものがどこまでできるのかというのはある程度見極めて行く必要はあると思っております。
- 藤野座長 多分もう本当一個一個見ていかないといきなり全体でワーって言うのも、その建物ごとのこともあるし、再エネの供給の量的な話もあるし、そこちょっと具体的にイメージしていかないと、何か浮いた話だとよくないので。岩川さんは何かありますか。
- 岩川オブザーバー すいません。国が管理する個別の施設についてちょっとコメント申し上げるわけではないんですけども、まずは全体論として東京都の資料にも分母、分子とありましたけれど、ちょっとまだ分母をどの範囲で捉えられるというのがちょっとまだ分からないので、ちょっと我々として個別にはコメントしづらい状況ではある。事務局と東京都とも話し合ってますね、今後詰めていきたいと思っています。それが一つ目のコメントです。あとは今みたいに電力の話だと他の調達でもそうだと思うんですけども、短期需要に対してですね、どれだけ量を確保できるのかっていうのは、そこは結構大きな論点になるのかなど。これは個人的な感想です。
- 藤野座長 どうもありがとうございます。他はいかがですか。よろしいですか。ちょっと二分だけ休憩もらってもいいですか。

～休憩～

- 藤野座長 議題4の持続可能性に配慮した運営計画第一版（案）についてということで、これはあの一昨日も議論されたということで。ここに書いてあるのは今日、議論をする内容についてはパブコメを出すときまでには反映できないかなと、それはちょっと難しいという前提をご承知の上でちょっと議論していただきたいんですけども。  
タイトル、前のDGの時に私が気候変動（ローカーボンマネジメント）というタイトルについて、DGの時に私はローカーボンということは脱炭素なんじゃないかという発言はしたんですけども、ちょっとそういうところも含めつつ、この運営計画について、つまりパブコメがあった後、出すのは12月ですよ。
- 事務局 はい。
- 藤野座長 10月くらいに多分また委員会があって最終決定されるんです。だからそれに向けて例えば文言もそうなんですけど、2020年っていうのはある意味通過点であって、そこできるところは頑張るだけですけども、そこはそういう方向性を持ってやったんだよ、その後も継続してやると例えば小宮山先生が言うゼロ排出は本当に実現するんだよとか、分かんないんですけど、そういった方向性の議論っていうのを例えばこういう中で入れられるんだろうか。もし入れられるのであればエビデンスが無いとね。勝手に夢ばっか書いて

もしやがないので、そのためにはどういう中身が必要なんだよとか、そういうことはあり得るかもしれないですけど、ちょっとそういうのも含めてちょっと今の時点でご指摘していただけたらいいところがあればお願いしたいと思うんですけど、いかがでしょうか。

じゃあ私からすいません。ちょっとローカーボンマネジメントのタイトルについて、脱炭素云々とは言ったんですけど、ここだけなんですよね括弧を付けて、付いてたんでしたっけ、そもそも。なんかロンドンとか言ってたんでしたっけ。

- 事務局 ディスカッショングループかワーキングか、こういう皆さんが集まった議論の場でローカーボンという言葉を入れていこうという話になって、副題として付けようとなったと記憶しております。ただ、先日のディスカッショングループでも藤野座長からご指摘あったように、本文の中ではそれほどローカーボンと言っていません。
- 小西委員 これを私が説明するのはおかしいんですけども、実はこれ調達ワーキングで最初にこれ全部決められていったんです。その時に気候変動という言葉だけだったので、もう2020年なのでパリ協定決まったので、脱炭素化なのでせめてローカーボン入れてくださいってすごく言って、ローカーボンすら入らない、気候変動の適切な排出量算定と管理という言葉だけだったんです。それはローカーボンじゃなきゃと、ぎりぎり何とかローカーボンと入れていただいたんです。  
ところがその親委員会に行った時に藤野座長があっさり、いやパリ協定決まったんだったら脱炭素化という言葉ですよって言われたら、それがパソコンって入ったんです。それで入ったみたいな感じで今まで来たので、二つ並存しているので、もし脱炭素化に統一されるのが小宮山委員長も含めても今のこの方向性だっということならば、ローカーボンは喜んで消していただければと思うんですけども。
- 藤野座長 何か横並びが必要なのか分からないですけど、他のところはあれでしたっけ。資源循環とかは何てタイトルだったんでしたっけ。
- 事務局 他のタイトルは「資源管理」、「大気・水・緑・生物多様性」、「人権・労働・公正な事業慣行等への配慮」、「参加・協働、情報発信（エンゲージメント）」になっております。括弧書きがあるのは「気候変動」と、「参加・協働、情報発信」のところですよ。
- 藤野座長 ありがとうございます。このタイトルくらいは変えたら、パブコメに出すときに変えて出すんですか。それもでも今のままなんですか。
- 事務局 本日のワーキンググループの前に、既に、ディスカッショングループや街づくり・持続可能性委員会を経ているということと、その前段で各FA、東京都、国の関係省庁等に意見を聞いているので、パブコメ前の修正はご勘弁いただきたいと思います。
- 藤野座長 さっきのその資源管理とかの並びだと炭素管理とかになっちゃうのかなとか、脱炭素管理っていうのは何かすごい言葉になって。
- 小西委員 英語にしちゃうとか。Decarbonizationとか。
- 藤野座長 なるほど。まあ英語だったら、そういうことになるのか。

- 小西委員 意外とその言葉知られてないから通るかもしれない。でも世界ではもう decarbonization です。トレンドなので。
- 藤野座長 だからそのタイトルの中に方向性まで示すのか、その分野としてのタイトルにするのかっていうのが多分あって、資源管理もじゃあ脱資源管理なんてあるのか。なんかまあその resource efficiency を高める、高めますよっていうタイトルにするのか、資源管理っていう項目でやるのかっていうのがあるので。そこはだから脱炭素管理までやるとそれは方向性示す話で、炭素管理だとカーボンマネジメントである意味、資源管理と同じ、同列かなと。ただそういう意味だと、今日決めなくても大丈夫っていうことですよね。
- 事務局 はい、そうです。今日すぐに結論ということではなくて、大丈夫です。
- 藤野座長 わかりました。ただちょっと決めるのは9月とかくらいまでには見えていて、10月の会議までには決めないといけないということですよね。ちょっと他との関係もあるので。ただ他との関係も見て、括弧ローカーボンマネジメントだけはちょっと何かバランスがちょっと違和感があったので、あの時はそういう発言をしたんですけども。  
他にあとお気づきのところで、10月改定に向けて。低炭素ワーキンググループも課題がないとね、いくらやれやれ言ったってね、やってしゃべることも無かったらあれなんで。どういう課題があるのかを今言っていたかかないと。事務局も色んな優先順位がありますから。その2020年は例えばですよ、小宮山先生がああ後言っていたのはトヨタとかに頼んで、みんな燃料電池自動車で移動すればいいんだとか言っていたんですけど、小宮山先生が全員にお願いしに言ってくれたらできるのかもしらんけど、ちょっとねできるかどうか分かんないですよ。ということだったりとか、ただそれは未来の姿としては燃料電池自動車・電気自動車がもう大半というか、ほとんどで移動できる。その一部は東京オリンピック・パラリンピックで例えば実現して、ゼロに向けているとかですね。  
あとその再生可能エネルギーの利用についてもその福島なり、他のところのその再生可能エネルギーを他の場所よりも沢山なんとか、どういう仕組みかは分からんですけど入れることだったり、この後議題になるカーボン・オフセットみたいな話で伊勢志摩でも、既にトライアルが実際ありましたから、そういったものをどういうふうに含めるとか。ちょっとそういうその今は確かに方向性も書いてるんですけど、若干まだ一般的な記述に終わっているかなというのがあるので、そのあたりをちゃんと何ですかね、どこかちゃんと検討している材料も持ち寄りながら補強できないかというところを8月、9月とかにできたら、さらにメッセージ性が高いものになるのかな、という私の印象です。
- 小西委員 藤野座長のおっしゃった通りだと思っております。で、ここに書いてある言葉がそれぞれ、一昨日どなたかの委員の先生がおっしゃっていましたが、行政用語でやらないという意味の推進ですとか、そういったことがズラズラズラって並んでいますので、これ東京都さんがやられてらっしゃる環境基本計画とかでは、それぞれの項目ごとに細かく台数とか目標値とかが入っているんですね。ですので、これ一つひとつ、道路交通量対策とか、CO2以外の温室効果ガスとか、これらそれぞれにすべて具体的なものを入れていくことが必要だと思っています。推進だけだと本当に単にプロモーションみたいな感じだけです

ので、その作業を具体的に進めていけるように、例えば今回は道路対策だとか、今回は何とかだとして、一つひとつ検討していけばいいんじゃないかと思っております。特に省エネは具体的な目標というのがすごく大事ですので、実際東京都さんが持ってらっしゃる環境基本計画と照らし合わせながら、それをちょっと上回る形で、メッセージ性が高いところをより重視する形で計画的に、例えばこれだけありますので3回ぐらいに分けて、それぞれ充ててやっていく作業をできればいいんじゃないかと。昨日、排出量の算定は今年度中とおっしゃっていたので、その作業と並行しながらやっていけると、今年中にだいたいの暫定的な算定の数値っていうのが見えてくるんじゃないかと思うんですけれど。

- 藤野座長 ありがとうございます。枝廣さん何かありますか。
- 枝廣委員 どの段階でそういった具体的なことを、項目をあげて進めていくのか。書いてあることはもちろんその通りなのですが、例えば環境負荷の少ない輸送の推進といったときに、なぜそれが必要でどんなイメージといったことはあると思います。しかし具体的にどうやっていくか、どういうスケジュール感でやっていくのでしょうか。一つの大きなポイントとして、私は自転車道をオリンピックを機に都内でちゃんと作って、特にヨーロッパからの方が自国と同じように動けるようになるというのを思っているのですが、例えば自転車利用の促進という言葉は入れられても、それを具体的にどうやっていくか？ どこがどういうタイミングでどういう風に進めていくのでしょうか。
- 藤野座長 このあたり事務局で何かイメージありますか。
- 事務局 今回この計画第一版を作成するにあたりまして、組織委員会の全部で52のFAにヒアリングしてまとめてきました。その中でやはり我々として課題に感じたのは、我々と並行してそれぞれの機能が計画を作っている最中です。具体的な数字・目標も彼らも今精査しているところで、現時点で数字を書き進めていくのがなかなか厳しいというところがございます。ですので、今回、数値目標は第一版では書けませんという形で整理させていただいて、第二版に向けて数値的目標も盛り込んでいきたいということで、今説明しているところです。なので、このWGの場でこうありがたいよね、ということでご議論いただいて、それを各機能に伝えていくことはできるんですけども、それが実際どこまでできるかというのはその各機能が考えるところもあるので、必ずしもお約束ができないというのが正直なところでございます。
- 枝廣委員 例えばいろいろなFAでやってらっしゃることで、そちらとの整合性や、実際に進むということがあるとして、やってらっしゃる方々がどういうことを考えてらっしゃるかということを私たちが伺うことができればいいと思います。例えば、こっちから見てこれが足りないんじゃないかということですか、伺うことでそういうやり取りができる。委員会であれをやったらどうか、これをやったらどうかと言っても、そちらはそちらで別に進めてらっしゃることもあると思うので。例えば自転車を例にとって言うと、自転車道を考えていらっしゃる部分があるとしたら、どういう計画でどれぐらい作ろうとされているか。それを知れば私もただ自転車、自転車と言うのをきっと止めるだろうし、それが足りないと思ったら言う、現実的に進められようとしていることに対して、それをわかったうえで意見を言わ

せてもらった方がいいと思うのです。もしかしたら交通輸送とかエネルギー関係とか、色々な低炭素に関わるいくつかの分野ごとに、皆でやるのが難しければ分担してもいいし、もしくは次のこういったWGのときにその担当の方、もしくはそれぞれでやっていることを共有していただいて、その上で意見交換することができたらいいと思います。

- 藤野座長 そうですね、やはり具体のところをやっていかないと、机上の空論で終わってしまうので、そのあたりは本当に精査されている方との意見交換する場を設けるといったことができれば。
- 小西委員 これやっぱり他所で話し合われているということを知った状態ですので、そういったこと自体がここになぜ書けないかということ自体を、他所でやっているからここは低炭素は開かれないんだ、そういうことになってしまっていると思いますので、是非そこは両方でやっていくんだという形をきちんとプロセスとして年末に向けて3回ぐらいに分けてというのを今の段階でお考え頂いて、日程調整とか進めて頂ければと思います。よろしくお願いします。
- 藤野座長 事務局の方いかがですか。
- 事務局 FAと相談しながら検討させてください。ありがとうございます。
- 藤野座長 直接なのか間接なのかわかりませんが、みなさんそれぞれ忙しいので、少し話をしてもいいよという事例が一つ二つでもあればよりわかりやすくなる。全員に聞くというのは大変なことになるのであれなんです。ただ書面ぐらいでは全体を把握しないと、どこまでできてできないというのがバランスとして判断できないので、そこを是非よろしくお願いします。
- 事務局 多分我々の方でFAがやることをしっかり聞いて、そのうえで皆さま方にお伝えするという形になると思います。
- 藤野座長 そういう形だと、最初の段階で8月、9月には一通りの話を聞かせていただいて、第一版のときに、第一版でどこまで詳しく書けるかということはあるかもしれませんが、全容がわからないまま第一版を書くのも危険かなと思いますので、お手数ですが教えていただけたら。多分第二版にもっと具体的なことが書かれるんですよね、今の感じだと。第二版が来年の11月か12月にIOCに出されるんですよね。そこがやっぱり東京すごいと思われるかどうかはあれなんです、小宮山先生が言うようなメッセージ性っていうのを見せながら、着実にやるところは着実にやりますよ、と書くんですかね。そういう作業なのかなと思いました。
- 小西委員 そうするとアクション&レガシープランで書かれた、委員が議論を深めたというのが初めてその言葉で通用するかな、と。
- 藤野座長 そうですね、僕もうっかりしていたんですが、全体の方でWGの位置づけが委員の位置づけみたいなので、何でしたっけ、議論を深めたっていうのがあって僕が前コメントしたんです。あれってどうなったんですか。確かに議論はさせてもらってるんですけど、深まったかなって、すみませんなんか変なコメントしたような記憶があります。委員との関

わりみきたいな。まあそれはまた議論するとして。では予定の時間よりかなり遅れているので、先に進みたいと思います。

次がキャッチフレーズ、スローガンということで、これは前カーボンニュートラルというのが立候補ファイルのスローガンだったんですかね。でそれをどうしていくのかってことで、意見、アイデア。説明をお願いします。

- 事務局 以前のワーキンググループの間でもご議論頂きましたけれども、カーボンニュートラルという表現が適切ではないんじゃないか、見直したらいいんじゃないかということで、そこについては皆さん異議はなかったかと思います。このWGの間では、各委員の皆さん持ち帰って、新しく、変わるけれども後退感が出ず前向きな表現を提案してくださいという話があって、その後ご議論いただけていなかったもので、今日この場でご議論いただけたらと思って議題にしました。ただ時間がないので、また持ち帰っていただくということでも構いません。
- 藤野座長 もし何かあれば。小西さんは何かありますか。「Road to Zero」でしたっけ。
- 小西委員 そうですね、そうするとまだ「Road to」なので、脱ではないですね。
- 藤野座長 2020年の段階ではですよ。そうですね。
- 枝廣委員 多分その方向感を出してゼロに向かっていく一つの過程、もしくは大きな弾みになるというそういう位置づけがいいと思います。ところで「Road to Zero」という話はこの間されていて、もう少しひねればいかなと思っていますのは2点あります。環境分野の人だとこれはソニーの言葉だと思ってしまうというのが一つと、もう一つはカーボンが入っていた方がよいということです。環境分野の人は「Road to Zero」でわかるけれど、何がゼロに向かっていいのか一般の人はわからないので、例えば「Toward Carbon Zero」とか、何かその方向感とカーボンと究極のゼロならゼロ、それを組み合わせたスローガンになるといいのかなと思います。
- 藤野座長 ありがとうございます。ということで継続審議。  
では、カーボン・オフセットに関する取組事例ということで、前回もご紹介頂いたのですがここ一つ重要なポイントですので、それでちょうど伊勢志摩サミットがありまして、経済産業省の須摩さんからお時間頂いてご説明いただけるということなので。事務局、お願いします。
- 事務局 資料6（カーボン・オフセットに関する取組事例）を使って、東京2020大会で参考になりそうな場面を想定した国内のオフセットの事例について説明。
- 藤野座長 ありがとうございます。では、須摩さんから伊勢志摩について事例をご紹介します。
- 須摩補佐（経済産業省産業技術環境局環境政策課環境経済室） 資料7（G7伊勢志摩サミットのカーボン・オフセットについて）を使って、伊勢志摩サミットで実施したカーボン・オフセットの取組を説明。

- 藤野座長 どうも具体の事例をありがとうございます。大変参考になると思います。何かご質問は。
- 枝廣委員 伊勢志摩サミットの取組の説明、ありがとうございます。具体的な質問ですが、この112社協力してくれた中で、手持ちのクレジットを寄付してくれたところと、手持ちはないけれど購入して寄付してくれたところがどれくらいだったのか、単位を何か設けられたのか、例えば1トンでもいいですとかそんな感じだったのか、購入してロゴを使いたいという理由で購入した場合だいたいどれくらいなのか、企業によって違うと思うのですがけれども、いくらぐらい出してくれたところが多いのか、感じがわかるとうれしいなと思います。
- 須摩補佐 ありがとうございます。最終的には全部終わったところで報告を出させていたでくので、まだ現時点で申し上げられることもそんなにはないかもしれないのですが、初めてクレジットを扱った企業さんとクレジットを既に持っていた企業さんでいうと、厳密に区分して募集しなかったので何とも言えないところではあるのですが、割合としては既に持ってらっしゃる企業さん、自治体さんが多かったと思います。それから、何か協力にあたっての単位はあったかということなのですが、募集の時には最低50トンからという形をお願いをさせていただいて、その50トンという企業さんもいらっしゃれば、もっとたくさん出して頂いた企業さん、自治体さんもございました。全体で110者、1万3千トンですので、平均50トンよりは高いところがございますけれども、そういった形です。それからロゴの話ですけども、実はロゴの使用に関しては一つ一つ申請をいただいて、それを私たちが承認するというプロセスをやっています。通算で数十くらいロゴ申請をいただいていて、それを各自色々使っているというところではあります。
- 小西委員 具体的なお説明、ありがとうございます。基本的には日本全国のみなさんの参加意識を高めるという意識では、一昨日あったお話しのお話の認証プログラムでした。その具体的な形としていいんじゃないかなと思っています。それでその上で、懸念が二つあるんですけども、これやっぱり大会そのものの運営から出る排出量というのは、いわゆる国際的に通用するような形でオフセットするべきなのではないかと思っています。日本の場合何になるのかはまだこれからご相談だと思うんですが、おそらくグリーン電力証書といった形があるのかなと思うのですが、それ以外のいわゆる、これはバウンダリの話をしてからになるんだと思うのですが、観客の移動ですとかそういったものに対して、例えばアメリカから来る人たちの分はどこかのなんとかっていう地域のなんとかから提供されたみたいな、いわゆるストーリーが作れる話のしかけがあるといいんじゃないかなと思っています。ただ私J-VERのしくみについて最近調査させていただいていないので不勉強で申し訳ないのですが、その中身についてある程度オリンピックで使えるもの以外は精査した方がいいんじゃないかなという気がするんです。例えば技術で、石炭の高効率化の技術とかでもなりうるんじゃないかなと思うんですけども、それをやっぱり使うというのは今日本はとてもしゃりだと思ってしまうので、ある程度J-VERの中でもこれとこれとこれみたいな、オリンピック認定商品のようなそういったものを作らないと危ないんじゃないかなという気がしております。これ基本的には中小企業さんとかの省エネの取組を底上げできる形につながると日本全国の底上げになると思いますので、そういった意味からも技術的な精査というのがあ

るといいかなと思っています。

- 須摩補佐 今おっしゃったのは、クレジットの銘柄みたいな話だと思います。おっしゃる通り、ストーリーというのは大事だと思っています。先ほどおっしゃった石炭の高効率化とかそういうものは特になくて、もっと細々とした、藤野先生にも認証委員会にも入っていただいているのですが、ボイラーを従来の石油ボイラーからガスボイラーに変えますとか、あるいはバイオマス発電をやりますとか、そういう細々したところというのがJ-クレジットの中身としては多いです。いずれにせよ、今おっしゃったようなストーリーというのはすごく大事だと思っています。オフセットで色々な企業さんにお声がけしていく中で、今回オフセットに協力するにあたって今まではクレジットを持っていないけれどもクレジットを自分たちとしても買って協力するパターンもあるのですけれども、今まではクレジットを持っていないが、やっぱり私たちはクレジットを買ってお金で解決するのではなくて削減を自分たちで頑張ったもので貢献していくんだという企業さんもいました。企業によっていろいろ考えはあるのですけれども、自分たちが努力したりどこかと協力してどこかの排出を削減するというを実際やったんですというような、ストーリーみたいのがある方がベターと感ぜられる、受け入れられる層も広がるのかなというのはございました。
- 藤野座長 事務局の方でも非常に参考になる例かなと思うんですけれども、何かご質問ありますか。
- 事務局 今回サミットとかでは初めての取組だったと思いますけれども、何かきっかけとか流れの中であったんでしょうか。
- 須摩補佐 まずベースとしては、先ほど申し上げた洞爺湖サミットの時には排出量に対して国内のクレジットというのがまだございませんでしたので、国際的なクレジットでやっていたというのが前例としてはございました。今回やる時に同じようにやるというものも一つ選択肢としてはございましたが、これから温暖化対策、気候変動対策の機運を盛り上げていきたいと考えている中にちょうどこういう話もあったところで、色々話をして、今回のような形でやることになりました。実際に始めるときには、2万トンぐらいという排出量について、我々も募集をしながら色々なところにお声がけしてなんとか集めてきたということなので、どこまでいけるかということもあったのですけれども、前回よりももっと広がりをもってできたら、同じサミットをオフセットするのでもよりメッセージがあると思って、関係省庁さん、外務省さん含めて議論していく中でこういった形でやることになったということなんです。
- 事務局 ありがとうございます。もう一つ、これをやることによって企業の方々へのその普及というか、意識の改革という形にもなったと思うんですけれども、結果として何かこうフィードバックされたり、発信をされたり、あるいはそのサミットに参加された各国の方々へに伝達されたり、発信の方で工夫された部分はあるんでしょうか。
- 須摩補佐 発信という意味ですと、サミットの開催の時には各国のメディアの方がいらっしゃるのですけれども、メディアの方がいらっしゃるメディアセンターがございまして、そこにこのサミットがこういう形でオフセットをやっていますというのを、英語版のリーフレ

ットも作って、ホームページにも載せているのですけれども、そういった形でPRをしました。それから、何社か新聞とかで報道もしていただいたりしました。あと、私たちのJ-クレジットの制度の方ですけれども、こういった事例もございましたということで広げられたらなと思っています、これから。このような制度もありますし、先ほどの都市対抗野球みたいな話もありまして、そういった取組をより広げていくというのを、これら事例をまさに梃子にしてやっていきたいなというふうに思っております。

- 小西委員 あの前Jクレはいま日本に全土に排出量取引制度が無いなか、おそらくデマンドがないんじゃないかと思うんですけれども、もしかして売れずにいっぱい余っているとか、そんな感じですか。どれくらいの供給量ってあるんでしょう。
- 須摩補佐 供給量としては年間30～40万トンくらいの供給量がございます、需要の方が多分、年間20～30万トンとかそういったところです。全体では、クレジットの需要は大きく半分ずつくらいに分かれていて、半分はカーボン・オフセットですね。製品をオフセットしたりとか、あるいは企業のCSR的な使い方もございますけれども、そういう形で使っています。残りは、大きい企業さんは国に対して毎年CO2いくら排出していますというのを報告するのですけれども、その時に先ほどの東京都さんの調達基準とかにもありましたけれども、電気で言うと調整後排出係数ですし、事業者さんも調整後排出量というのがありまして、ネットを出した分とクレジットを使った分というのを差し引きして、調整後にはこの数字ですというふうにやることもあるのですけれども、そういったところでの調整のためにオフセット、クレジットを使っていたらというのが全体の半分くらいですかね。
- 藤野座長 ちょっと一度、特に小西さんには情報をシェアしていただくような機会が、失礼しました。中身が分からないと、そのJクレジットがどのくらいのクオリティが分からないので。
- 小西委員 クオリティはいいとは思うんですね。
- 藤野座長 是非私も委員で勉強中ではあるんですけど、勉強させてもらいたい。
- 枝廣委員 今の色々な追加のお話を聞いたうえで、今度の東京オリンピックでどうするかということを中心として議論するんだと思いますが、認証プログラムでみんなで盛り上げていくという、いろいろなプロジェクトにロゴをつけましょうという話がこの間あり、それとまた別に、カーボン・オフセットでクレジットを提供しているという形を出していくことになるのでしょうか。何か事務局の方でお考えがあれば教えてください。もう一つ経産省の方に、もしくは藤野さんに教えていただきたいのは、2020年のオフセットに向けて4年間あるので、4年間の間にそのために向けてある程度のクレジットを作っていけるものなのか。例えば森林だと4年後というのはどれくらいできるかわからない、もしくはあんまり手入れされていない森林を手入れすることで4年後にクレジットができるのか。ボイラーの取り換えだと4年後だったらできるのかとか。例えば法人にしても、特に東京オリンピックの場合、私は市町村と組んだらいいと思っているのですが、そういうプログラムがあるのだったら、じゃあ4年後に向けて今からこういうことをやっていこうという、4年後に向けてクレジット作っていこうという動きができるものか？ どれくらいあるのか？ それも教えていただければ

と思います。

- 藤野座長 じゃあ、まず事務局の方から何か。今後の使い方だとか。
- 事務局 認証プログラムの方についてはまだ検討していない状況なので、これから皆様方と検討していかなければいけないと思っております。同様にオフセットについてもゼロからの始まりになります。私も一点質問させていただきますが、個人が買って提供することはできるのでしょうか。
- 須摩補佐 まず枝廣さんからのご質問ですけれど、確かに2020年までに4年間あって、そのために作っていくというのはすごい話だなと思います。ただ、じゃあオリンピックのために来年ボイラー入れ替えますというのを企業さんがやるかというのはまた別だと思いますが、もう目標がオリンピックの2020と決まっているので、そこに向けて何かできるか、何か新しいプロジェクトをやるのか、あるいは元々考えていたものをオリンピックに充てていくということもあると思います。そういうオリンピックのためにやるんだという形のストーリーになると、よりいいと思いますし、そういったのは可能性としてもあると思います。新しくやりますという形になるのかはわかりませんが、省エネや森林を考えられるところもあると思いますし、そういったところを巻き込んで。もう一つ、個人というお話もありましたけれども、サミットのオフセットの時は法人と団体と自治体さんだけで、個人というのは入っていませんでしたが、オリンピックはまさに国民的なイベントでもあると思うので、個人で何かできるものがあるかというのは検討する余地はあるのではないかと思います。
- 藤野座長 ありがとうございます。まあイメージはオフセット協力のロゴ、G7サミットのマークのところがこの今後でき上がるであろう、東京オリンピック・パラリンピックの非スポンサーっていうかのロゴがここにはまって、隣にカーボン・オフセットのロゴが並ぶみたいな。これがバーッと広がって、ある意味炭素を通じたエンゲージメントみたいなところにつながると、また違う切り口での参加ができるのかなというところで。ここはまた深めて。お願いします。
- 岩川オブザーバー みなさん多分この件についてはCO2の件とエンゲージメント併せて捉えておられると思いますが、その時にメリットの部分ですね。これがないと、どれくらい厳しかったのかとか、結構開催地域と直接あまり地域的なつながりのない、かつどちらかというところと財政的にも厳しいところから結構ご協力いただいているんじゃないかなと思うんですけども、逆にメリットがどれくらい効いたのかという言い方でも別に結構ですし、メリットが無いとどれくらい厳しかったのかというのも結構なんですけども、ちょっと教えていただくと助かります。
- 須摩補佐 たらればの話になってしまうのですが、やっぱり私たちは必要だったと思っております。私たちがお願いをするときに、協力いただいても名前も出ません、ロゴもありませんと言ったら、それは本当に何のために出すんですってということになるので。段階で言うと、まず名前を出すというのがミニマムとしてあるのだろうなというのが最初の議論の中でもございました。さらに、先ほど申し上げた企業の環境報告みたいところで使えた

り、あるいは自治体さんが、実際協力いただいた自治体がプレスリリースを自治体で出されたりされているところもございますけれども、そういった形で協力したということを積極的にPRされたり、企業さん自身がツイッターとかでやっていただければ、オフセットについて世間的に広まります。そういう意味でも、メリットが無かったら集まらなかったと思います。私たち自身ではないところでもPRしていただくのも含めてやろうという話。洞爺湖の時には国としてやりました、以上ということだったのですけれども、広げるという意味では、参加者のインセンティブですとか、あるいはそこから広がっていくっていうと期待もあってこういう形になったので、やはり、これはメリットがなかったらここまでいかなかったのだろうなというのが実感としてはございます。

- 藤野座長 ありがとうございます。
- 岩川オブザーバー コストダウンに取り組む中で、もしこういう仕組みを作るのであれば事前キャンプ地など関係各方面の協働を得られるような仕組みがあればいいなと思いますね。そういう観点からちょっとご質問させていただきました。
- 藤野座長 ありがとうございます。これちょっと計画的にね、あとそのやっぱアクション&レガシーにつながりますし、一方で事務局もキャパがあるので、是非Jクレのその事務局が中心となってこれを一層進めていただくか分からない。そこ是非ご相談しながらできたらなど私は思いました。あとごめんなさい、座長権限っていうか、環境省から伊藤さんから今の議論に一言あれば。
- 伊藤室長補佐 環境省市場メカニズム室の伊藤と申します。ちゃんとしたお答えはまた別途させていただきますが、Jクレジットの認証量の8割くらいは太陽光発電、再エネのクレジットとなっています。これはしっかりとしたデータを経産省さんとまとめて、ご回答の機会をいただければなと思います。今日はちゃんとしたデータを持ってきてなくて申し訳ございません。
- 藤野座長 また今後、我々も勉強しましょう。
- 小西委員 伊勢志摩サミットで移動と、それからサミット会場のエネルギー消費ってあるんですけども、やっぱりこれ階層化するべきだとすごく思っていますので、これはJクレの話はまあロットの的には30~40万トンということですし、やっぱりこの移動とかのいわゆるその外側の階層の話だと思うんですね。やっぱり中身はもっとしっかりした国際的な総意が作れるものとか、あるいはその再エネのそのものとか、そういうものである必要があると思うので、そのバウンダリを話し合うときにこのどこの部分はどのオフセットという所と同時に話していく必要があるのかなと思います。決して水をかけるわけではないんですけども。必要なオフセットなんですけども、コアなオフセットではないなと思っております。
- 藤野座長 そのあたり、また議論が必要ですよ。それぞれ多分考えがあると思うので。
- 枝廣委員 つい最近の共同通信のアンケートを見ているのですが、東京五輪に向けての交流などに関心のある市区町村が9割を超える一方、具体的な取組を開始したのは17.1%です。「五輪への取組ノウハウなどを持たない自治体に政府や大会組織委員会が十分な指針を示

せていない実態が浮き彫りになった」という書き方がされています。非常に関心がある自治体が沢山あるので、このようなオフセットっていう形でのエンゲージメントがあるといえるとよい。さきほど申し上げたように、もう手持ちの物があつたら寄付できますが、それだったらこれからやっていこうと考える自治体だったらすぐには動けないところも多いでしょう。できるだけ早めに動くこと。全部制度設計してからしようと思うと多分結構先になると思います。制度設計の細かいところはともかく、こういう形で自治体が関われるとていうのは早めに出していただけると、それぞれの自治体で来年度くらいからやってくれるといいなと思っております。

- 藤野座長 ありがとうございます。そのあたりは、もしよろしければJクレジットの認証委員会の方ですよね。議論としては、ちょっと共有、あのオリンピック・パラリンピックの低炭素ワーキンググループからそういう意見が出ているので、先を見据えてそういうJクレジットのまた新たな顧客獲得みたいな。よろしくお願いします。
- 臼井委員 あの基本的にはオフセットは皆様のご協力、都民の方々、自治体の方々とか、そういった皆様のご協力をいただきながら進めていくというような形が中心になると思ってよいでしょうか。基本的にその最終的にお金で買うだけで終わらせるような話ではなくて、皆様の協力をいただいていくような、そんな話でよろしかったですかね。
- 藤野座長 事務局いかがでしょうか。
- 事務局 それに関しては、今はどちらもあるかと思います。我々の方でクレジットを買ってくるのと、みんなと一緒に気運を醸成しクレジットを集めるということもあっております。
- 臼井委員 そういう意味ではそうですね。気運醸成の意味でやはりレガシーとして残っていくんで、低炭素を進めているという意識がやはり浸透していく効果はあるとは思うんですね。一方でですね、単にお金で買うかどうかっていうのは、少し慎重な議論が必要かなとは思いますが。
- 事務局 今回の伊勢志摩サミットでは、実は政府の部分も最初の制度設計の段階で企業様とか自治体様から募ったほか、足りない分は政府の方で出すっていうことを最初の制度設計の中で言っておりますので、仮にオリンピックでやったとすればですね、そこが全くなく、皆さんくださいと、集まってくればやりますというのはなかなか難しいかなと思っております。あとスポンサーの名前を使えないというところの大きな壁もですね感じながら、ただ否定的なことばかり考えてもしょうがないので、そこをいかにしてスポンサーさんとの名前との関係をクリアできる道がないのかっていうのは検討していきたいなと。
- 藤野座長 ありがとうございます。やっぱりちょっとそこら辺のその懸念材料もちゃんと考えないとね。いざやって上手くいかないんじゃないかなので。事務局何かありますか。大丈夫ですか。まだ完全にこれやるって決めたわけでも、もちろんないのでね。でも一つの有力なやり方なんじゃないかなということで共有していただけたのかなと思っております。

では、時間もあれなので、一応参考までに何回も名前が出てる小宮山先生の資料を事務局に印刷していただきました。今後の議論の参考にエネルギー自給国家を目指そう、再エネは安い、省エネは儲かる。すごい直截的なタイトルです。ちょっとこれも提供しながら、次回の8月か9月かいつになるか、また調整だと思うんですけども、その第一版を作るにあたって、方向性もうちょっと打ち出していくための議論っていうのが必要なんじゃないかなというのが今日の話だったのかなと思うんですけども、よろしいですか。あとは今後の予定ですね。事務局の方からありますでしょうか。

- 事務局 今後の予定として、パブリックコメントの結果の速報を9月頃に皆さんに共有させていただくこと、10月にリオデジャネイロ2016大会の情報共有等を予定していることを説明。
- 藤野座長 ありがとうございます。リオデジャネイロ2016大会が皆さん行かれるんだったら忙しいので、それが終わってからですけども、やっぱりちょっと委員会の前には一度ちょっと開いていただけたらなと思います。気をつけて行ってらっしゃい。なんかリオ色々聞くので。
- 小西委員 バウンダリの話。
- 藤野座長 そうですね。あとバウンダリの話だったり、それを次回の時にさっきあのそちらの内部は内部でいろいろな部局と調整されているとのことだったんですけど、実はそれがバウンダリの話と直結する話だと思いますので情報共有していただければと思います。
- 小西委員 それはいつぐらいになるのでしょうか。バウンダリとかそういった話をご説明いただけるのはいつぐらいになりそうですかね
- 事務局 すいません。今この場ではちょっとなかなか難しいので。
- 小西委員 はい。
- 藤野座長 じゃあちょっとこちらの方も議論したいことを委員の方でまとめながら、逐次相談させていただけたらなと思います。
- 事務局 先ほどの議論の中で各機能がどんなことをやっているかと話ありましたけれど、特に自転車というお話しありましたが、具体的なテーマなど個別に言っていただければと思います。
- 藤野座長 ありがとうございます。他はよろしいですか。
- 事務局 直近の委員会、あるいはDGの中で、何人かの先生方から議論の透明性の向上についての話がありました。時間があれば、それぞれの委員からもお話を伺おうと考えております。と言いますのも、DGの運営ルールとして、会議の公開のところについては原則非公開にすると、当初に決めたものがあり、ただし、座長が必要とする場合には公開にするということになっておりますワーキングもそれを準用してやりましょうということになっているのでございますから、手続き的にはそれを変えていけばいいだけの話なので、そういったことで先生方からご意見を伺おうと思っておりました。

- 枝廣委員 ぜひやりましょう。
- 藤野座長 じゃあ公開でいいですね。
- 事務局 公開でいいですね。
- 藤野座長 全員一致らしいです。全員一致
- 事務局 公開のやり方は色々ありまして、例えば一つのやり方として議事録を全部公開するというやり方がございます。それから、会議そのものにプレス、この前の委員会はペン記者の方だけですけども、記者の方に入ってもらって見てもらうというやり方もあると思います。やり方はいくつかパターンはあると思いますけれども、これから順次、他のワーキングが開かれますので、それぞれのワーキングの中で先生方のご意見をいただいでいこうと思っておりますので、どういうやり方がいいかとかご意見ございましたら、事務局の方にご連絡いただければと思います。
- 枝廣委員 ワーキングごとに決めていいのですか。ワーキング全体で同じやり方が必要なのでしょうか。
- 事務局 ワーキングごとで。
- 枝廣委員 じゃあ、低炭素は最大限の公開しましょうと決めればいいのですね。
- 事務局 そうですね。
- 枝廣委員 じゃあ、それでいいのではないのでしょうか。
- 事務局 まずディスカッショングループの方で一度整理をして、それを受けてワーキングの方でも直すと、物理的にはそういう感じになりますので。
- 枝廣委員 今日のワーキングの議論から公開になりますか。
- 事務局 今日は全然ご案内できていませんので、ルール変更した次回からということになるかと思っておりますけれども。
- 藤野座長 我々は全部公開。議事録、名前も入って全部公開してもよいと。
- 小西委員 はい、してほしい。
- 藤野座長 してほしいという態度です。はい、よろしくお願いします。
- 小西委員 多分一般の方を入れるとなると、きっとお部屋とか大変なのかなと思いますので、やり方はお任せしますけれども、基本的にはペン記者も一般も全部オープンで。
- 事務局 わかりました。
- 藤野座長 よろしく申し上げます。ありがとうございます。以上でよろしいでしょうか。今日も本当熱心なご議論、ご説明も色々ありがとうございました。引き続きよろしくお願いたします。

以上